みんなでつくる 男女共同参画社会

できることから一歩一歩

ワイワイ話そう 女性たちの農業

8月29日、武雄市文化会館で農業従事者や消費者など68人が参加して「ワイワイ話そう女性たちの農業」が開催されました。

杵島農業改良普及センター副所長原田都巳子さんの基調講演の後、参加者が5つのグループに分かれて、日ごろ思っていることを話し合いました。

この催しは、佐賀の農業を考える会（代表庭木陽子）の主催によるもので、昨年行なわれた農業委員選挙をきっかけに、2回の学習会や「2007男女共同参画フォーラムINさがワークショップ」を経て、今年5月に旧市町の枠を超えて発足しました。

農業分野の男女共同参画社会づくりのための活動や会員の研修、交流などを進めていくことを活動目標とし、来年2月には、第2回目の企画が予定されています。

この「佐賀の農業を考える会」の事業には、本年度から市が導入した「武雄市女性団体等活動補助金」が活用されています。女性団体が市と協働で男女共同参画社会づくりを目的として実施する事業への補助金です。

このような自主的活動が盛んに行なわれ、女性たちが元気になることが、「元気な武雄市」の原動力になると考えます。

いろいろな意見が提出されました

○消費者は安全・安心なものを買う。

●生産者は、なるべく無農薬を心がけている。ＥＭや竹酢などを使っている。

●集落営農は難しい。男性中心である「農業」という企業で働く大変さ、ますます農業離れが進むのではないか。

●直売するようになって元気や頑張りが出て、経済力や発言力がついてきた。自分が忙しそうだと、夫が家事をしてくれたり、相談したりことが出てきて、お互いを尊重する男女共同参画の夫婦になってきたと思う。

●大規模農家は後継者問題で悩みがある。

○女性が元気になれば、地域が元気になる。

○女性が会合に出席し、発言すると「女が」という目で見られる。まだ、自分にプロ意識がないからだろうか？

ストップ！DV

夫やパートナーのことを「怖い」と感じているようなら、ＤＶ（ドメスティック・バイオレンス）の被害を受けている可能性があります。被害者の多くは女性で、ＤＶが特殊な女性だけが受ける「殴る・蹴る」の暴力だけではありません。加害者も特殊な男性ではなく、職業をもって社会的な活動をしているごく「普通」の男性であることも様々な調査から分かってきました。

□「バカだ」などと言ったり欠点を上げて言う。（言葉の暴力）

□生活費を渡さない。収入を知らせない。（経済的虐待）

□子どもを取り上げるぞと脅す（子どもを利用した虐待・暴力）

□テーブルをひっくり返す。刃物を出す。（脅迫・威嚇）

□暴力の責任を回避したり被害者のせいにする。

□実家や友人との付き合いを制限する。外出や電話をチェックする。（孤立させる）

■ご相談は

・ＤＶ総合対策センター
電話０９５２（26）１２１２

・県立女性センター「アバンセ」
電話０９５２（26）００１８